

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		グループホームの特徴である入居者とスタッフが一緒に家事を行うということが、入居者のADL低下も伴って最近できていない。まずは課題を整理・分析し、入居者とともに家事ができるよう支援を行いたい。	入居者と家事を一緒に行う参加率を増やそう。	GA活動(小集団活動の当社の呼び方)を通して、課題を整理し、取り組める重点項目を分析した上で、シフトのルーチン業務を見直し、入居者と一緒に家事を行えるように意識統一を図った。その後、7月より実際に入居者と一緒に家事を取り組んだ回数をデータで記録し、開始前と開始後で参加率の変動、スタッフの意識の変化を振り返った。	開始時期 (2月～) 8ヶ月
2		入居者のプラス面に着目する「にやりほっと」活動を行っているが、実際のケアに上手く活用できていない。入居者の「できる」能力を介護計画に反映し、本人の意向を汲んだケアプランにつなげていきたい。	入居者の「できる」能力をケアプランに反映しよう。	センター方式の心身の情報シートを活用しながら、本人の希望や意向を活用し、「にやりほっと」で再発見できた能力を「できることリスト」にまとめ、スタッフに情報共有する。また、ミーティング等で話し合い、ケアプランのサービス支援内容や短期目標に反映させる。	開始時期 (4月～) 12ヶ月
3		介護ロボットの実証試験に参加することが決まり、ロボットと入居者の間を取り持ち、入居者の支援に役立てたい。	入居者がロボットを楽しむ空間をつくろう。	導入する介護ロボットの使い方の勉強会を行い、どの時間帯でどのプログラムを使用すると入居者に効果があるかを話し合い、プログラム内容を決めて、実証試験を始める。ロボットの起動も含めて、入居者の関心をもってもらうとともに、会話や体操を楽しむことで、入居者の手持ち無沙汰な状況を改善し、ロボットの親しむ空間作りを行う。	開始時期 (8月～) 6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。